

---

# また、手を握って

枝崎星子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

また、手を握って

### 【Nコード】

N4548Z

### 【作者名】

枝崎星子

### 【あらすじ】

中学三年生の佐藤祐希は受験真っ只中の冬の日、27歳の男、宮下蓮に出会った。元々、祐希の男性のタイプが年上、しかもかなりの。というところからか、祐希は蓮に恋心を抱きはじめた。蓮は3年もすれば三十路。祐希の気持ちには答えられないとわかっているのだが……。

## 序章

今日も冷たい風が私の頬を通り抜けていく。

マフラーの隙間にまでもスーッと入ってくるものだから、少しばかり身震いをしてしまう。

そうだ、あの人を見つけたのもこんな寒い日だった気がする。

どこかの古くさい小説が何かで出てくるような言葉を思い浮かべながら、私は歩き続けた。車を通るたびに吹く風が憎くて仕方がない。好き、嫌いなどの恋愛感情に対して私は酷く面倒くさがりなようで、私はずっと男の人、というものに興味が湧かなかった。

周りの友達は大いからすると、「ませている子供」なのだろう。あの人とも言っていたのだ。でも私からするといち早く、誰よりも早く大人になって周りの人に尊敬や期待の眼差しを感じたいと思っているのだ。

中には、大人の恋愛がしたいとか、仕事をしたいだとか、勉強しなくていいからだとか。

聞いてみたい、あなたは子供のころにそう思ったことはないのですか、と。

そして私はあの人と出会った。子供と大人で愛し合って、「恋愛」・「恋」というものをしたのだ。

大好きだった。

親には内緒の恋だったけれど、本当に楽しかった。  
良い人だった。

優しかった。

年の差とか、初めは気にしていたようだけれど私は全然よかった。  
徐々に私の気持ちを知っていつてくれるあの人が好きで、好きで、  
どうしようもなかった。

冷たい手をぎゅっと握ってくれるあの人の手も冷たかったけど、大  
きくて心底安心したのを覚えてる。

本当に、大好きだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4548z/>

---

また、手を握って

2011年12月15日16時52分発行